



# 『We♥鏡中』

令和8年 2月27日

## ☆彡「こころづかい」は見える

右の写真は、今朝の登校道路前の様子です。11/30（日）に生徒・職員・保護者の皆様・地域の皆様で作業してもらったので、登校道路の南側には雨が降っても水溜まりはできていません。昨年6月頃とは大きな違いです。ですが、登校道路の北側は側溝等無く、歩道の真横に大きな水溜まりができる状況は変わっていません。6/10にはなまる連絡で、『歩道と車道の距離が近く、水溜まりを車が通るたびに、水しぶきを浴びている子が多いので、児童・生徒がそばを通過しているときには、少しスピードを緩めてもらえないでしょうか。ご協力をお願いします。』と厚かましくお願いしていました。上の写真を見ていただくとわかりますが、スピードを緩めて通行して下さる車、水溜まりを避けて中央線よりを通行して下さる車が（残念ながら全部ではありませんが…）多数見られます。ありがとうございます。運転手の皆様のその「心づかい」で心が温かくなります。



このことを見て私は、東日本大震災の後ACジャパンのテレビCMで流れていた「『心』は誰にも見えないけれど、「こころづかい」は見える。『思い』は見えないけれど、『思いやり』は誰にでも見える。その気持ちをカタチに。」という言葉思い出しました。児童生徒のために「心づかい」をしてくださっている保護者・地域・運転手の皆様の心づかいを、子どもたちが「気づいて」ほしいと思っています。それが「気づき 考え 行動する」ことの第一歩です。

ただ、このような「心づかい」は、多くの鏡中生徒の行為にも見られます。ひと月ほど前、職員室から出ようとした私の前に職員室から退室しようとした1年生の女子生徒が、私が少し離れて後ろから来ていることに気づき、自分が職員室から出た後、職員室のドアを開けたまま待ってくれた生徒がいました。（職員室のドアは自動でゆっくり閉まります）「ありがとう」と私は言ったのですが、女子生徒のその自然な「心づかい」が本当にうれしかったです。また、道路を渡る際、止まっていた車に立ち止まってお辞儀する鏡中生徒は非常に多いです。私は車を運転しているとき、そのお辞儀する「心づかい」に癒されます。道路交通法では、信号機のない横断歩道でも、歩行者が渡ろうとしている時は必ず車は一時停止しなければならないので、停止することは当たり前なのですが、それでもペコリと頭を下げてもらっただけで嬉しくなります。おそらく保護者、地域の皆様がなさる行為を小さなころから見ているから、中学生になってもそういった行為を自然にできるのだと思います。本当にありがとうございます。

埼玉県出身の詩人で作詞家の宮澤章二さんが作った「行為の意味」という詩を紹介します。この詩の抜粋が、ACジャパンのテレビCMのもとになったと言われています。

「行為の意味」 宮澤章二

あなたの心はどんな形ですかと 人に聞かれても答えようがない

自分にも 他人にも心は見えない けれどほんとうに見えないのであろうか

確かに心はだれにも見えないけれど 心づかいは見えるのだ

それは 人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の思いは見えないけれど 思いやりは見えるのだ

それは 人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心が あたたかい行為になり やさしい思いが やさしい行為になるとき

「心」も「思い」も、初めて美しく生きる それは 人が人として生きることだ